



学園通信

◆2017年（平成29年）11月20日発行 ◆Vol.4

故きを温ねて、新しきを知る
～葵学園のあしあと～

昭和48年、帯広源照学園の理事長が初代大高源照氏から阿部勝治氏に交代します。この交代は、お寺から始まる檀家子弟中心の幼稚園からより広いイメージの持てる幼稚園に移し替える目的がありました。

阿部新理事長は、それまで母体となっていた大然寺から幼稚園用地、建物、遊具を買収し葵幼稚園園舎の増築工事に着手します。定員もそれまでの46人から90人に増員、更には、帯広市内初となる健康児と障がい児の総合保育の検討も始めます。

昭和50年には、大空町の葵南幼稚園の園舎を増築しホール、職員室、教材室を整備します。この工事により葵南幼稚園は昭和52年には定員140人を190人に変更することができたのです。

昭和52年、葵幼稚園は再び定員増に向けての増築工事をしています。また、昭和49年に始めた障害児と障がい児の総合保育をより

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

本格化するために園内体制を整え、知的障害児9人、肢体不自由児2人を受け入れていきます。しかし、これら積極経営もすべてが順調に進んだ訳ではありません。

昭和48年、阿部理事長は帯広市のとなり町帯別町に新しい幼稚園をつくる計画を打ち出します。帯別町民は大きな期待をもちますが、認可申請の不備等が理由となり昭和52年にその計画を断念しています。

当時の新聞は、当然、帯別町民の期待を裏切った帯広源照学園と報じることになりました。

幼稚園経営はニーズを重視しなければなりません。計画を実現するための段取りはもっと重要になることをこの事例から学ばなくてはなりません。

子どもに必要なことはすべて
児童憲章
の中にあります

児童憲章

第二条
すべて児童は家庭で、正しい愛情と知識と技術をもち育てられ、家庭に恵まれない児童には、これに代わる環境が与えられる。

All the children are to be reared with proper affection, knowledge and technique in each family and for the children from unfortunate homes, another proper environment is to be given.



幼稚園型認定こども園
帯広の森幼稚園



幼稚園型認定こども園
つつじが丘幼稚園



保育所型認定こども園
緑陽台保育園



小規模保育所
OIZ 青い鳥保育園



未就園児教室・ベビーダンス教室
あおいキッズハウス



児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援
あおいハウス